

国際会議から

マグレブ国際会議 (MAGLEV 2011)

マグレブ国際会議は2年あるいは3年に一度、ヨーロッパ地域、南北アメリカ地域、アジア地域で開催されている、名前の通りマグレブ（磁気浮上）に関する国際会議です。日本では1998年、超電導磁気浮上式鉄道の実験線がある山梨県で開催されたこともあります。今回で第21回目となり、近い将来、韓国の仁川国際空港で営業開始予定の磁気浮上列車（Urban Maglev）の実験線がある大田広域市で開催されました。韓国の磁気浮上列車は常電導電磁石の吸引力で浮上するタイプのものです。会議には15カ国から論文が寄せられ、発表者は100名、全参加者は195名でした。基調講演では本国際会議の国際運営委員長でもある鉄道総研の正田英介会長からマグレブ開発の歴史を振り返る内容の講演があり、続いて中国、アメリカ、ドイツ、韓国などの講演者からそれぞれの国におけるマグレブ開発の現状についての講演がありました。一般

正式名称：The 21st International Conference on Magnetically Levitated Systems and Linear Drives (MAGLEV 2011)

開催国：大韓民国（大田広域市）

期間：2011/10/10～13

主催：KSR（The Korean Society for Railway）

開催頻度：2年あるいは3年に1回

次回開催予定：2014年10月 ブラジル（リオデジャネイロ）



長嶋 賢

浮上式鉄道技術研究部
低温システム研究室 室長

高橋紀之

浮上式鉄道技術研究部
電磁路技術研究室 主任研究員

講演では鉄道総研からは我々2名が発表し、高温超電導磁石や地上コイルの開発について報告しました。次回はブラジルで開発中の高温超電導を用いた磁気浮上システム（Maglev Cobra）の実験線を建設予定のリオデジャネイロで開催予定です。



テクニカルツアーで訪問した韓国の磁気浮上実験車（Urban Maglev）